

京大生への 不当処分反対！ 首都圏連帯集会



被処分者来たる！

12月2日(水)18:00~

@麹町区民館 洋室AB (主催: 全学連)

※読み終えた不要なピラはピラ回収BOXへ



熊野寮生3名に対する
無期停学処分の
撤回を求める署名



全国の大学で「コロナ対策」を理由に続く、課外活動をはじめとする学生の活動規制規制。実は、「自由の学風」をキャッチコピーとする京大では以前から強権的な規制が加えられていました。マスメディアでも取り上げられた立て看板の規制や学生寮の廃止への動きその象徴的なものです。

これらに抗議する学生には、退学処分や無期停学処分（事実上の退学だが年54万円の学費を請求される）が濫発され、16年から19年までにのべ15件もの学内処分が下されています。その中には、「職員の乱暴な行為を止めようとした」とか「アニメキャラクターの像を設置しようとした（上写真）」「職員の指示に即座には従わなかった」といった理由ならざる理由での処分もあります。

これらの処分はすべて、「リベラル」と呼ばれる山極壽一前総長のもとで下されました。処分内容は総長をはじめとする一部役員密室会議で決められており、本人や周囲の学生からの異議が聞き入れられたことはありません。そして、処分の撤回を求めようにも、停学中は学内に入れないという理不尽さです。

こうした大学当局の横暴に、京大生は日々闘ってい

ます。その活動は京都市民ともつながり、「自由な京大文化を守りたい」という域を越えた、社会の中での大学の役割と責任を問うものへと発展しています。

処分とは、学生の人生を破壊し未来を奪うものであり、これと闘うのは困難を極めます。しかし、処分に屈してしまえば、学生がキャンパスで一切声を上げることができなくなります。被処分者たちは、処分撤回を求め、大学当局を変えるために、闘いを継続しています。

京大生は昨年12月に処分撤回を求める集会を行いました。この集会では、参加者の力で大学職員の妨害をはね返して団結した学生の力を示しました。そして、京大生は今年も学生の力を示して処分撤回集会を開催する（**12月10日（木）、京大にて**）ことを決断しています。

12月2日には、被処分者のうちの2人が、処分撤回闘争の意義を熱く語るために上京します。キャンパスで声を上げただけで人生を破壊されてしまう大学・社会のあり方を変えるために、京大生の闘いに固く連帯しましょう！ 12・2首都圏連帯集会にぜひお集まりください！